

科目名	人間の理解Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小林 桂子	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

人権や権利擁護についての日本や諸外国の歴史的経緯を学ぶ。
「人間」の多面的な理解を図ることを基礎として、介護福祉士に求められる人権尊重や権利擁護について学び、自立（自律）の考え方や、尊厳を守る介護と自立支援の視点を考察する。

到達目標

この科目を学習することにより、介護を必要としている者の全人間的理解、介護福祉士としての倫理基盤を涵養することができる。そして、人間の尊厳を保持し、自立した生活を支える必要性について理解できることを目指す。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	人間の尊厳と個人の尊厳
第2回	人間の尊厳と利用者主体
第3回	権利擁護の歴史的経緯
第4回	人権、そして尊厳に関する日本の諸規定
第5回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷
第6回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷
第7回	人権尊重と権利擁護
第8回	権利侵害の現状と背景
第9回	自立のあり方（身体的・精神的・社会的自立）
第10回	自立を支える介護とは
第11回	介護における自立支援の実践
第12回	尊厳を守る介護と自立支援の関係性（実情と課題）
第13回	尊厳を守る介護とは
第14回	介護における尊厳保持の実践(まとめ)
第15回	期末試験
	※学生の理解度状況により、講義内容を多少変更することがある。その際は、学生に事前に告知する。

授業時間外の学習

事前学習：テキストに目を通してくること（該当ページは授業内にて指示）
事後学習：授業の理解度をはかるため、必要に応じて確認テストを実施（実施について事前に授業内にて指示）

成績評価

定期試験100%で評価する。
講義のほか、学習内容を深めるために必要に応じてグループワークも行う。
積極的に授業に参加することを期待する。

使用テキスト

テキスト：最新・介護福祉士養成講座第1巻「人間の理解」第2版 中央法規

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	人間の理解Ⅲ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小林 桂子	配当年次	2	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	2

授業概要

介護福祉士は、介護職のグループの中での中核的な役割やリーダー下で専門職としての役割を発揮することが求められている。よって、この授業では、介護実践においてマネジメントするために必要な「介護実践におけるチームマネジメントの意義」「ケアを展開するためのチームマネジメント」「人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント」「組織の目標達成のためのチームマネジメント」等を中心に学習する。

チームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を習得することを目指す。これらの授業を通して、自身のキャリアデザインを考える機会とする。

到達目標

＜介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理＞

- ・組織の機能や構造について説明できる。
- ・ケアを展開するために必要なチームの構成や役割について考えることができる。

＜人材の育成や活用などの人材管理＞

- ・チームでケアを展開するために必要な、様々な実践力について理解できる。
- ・実践力を高めるために必要な、人材育成・開発のしくみ（OJT、OFF-JT、SV等）・方法について説明できる。
- ・介護福祉士の多様なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	ヒューマンサービスとしての介護サービス
第2回	介護現場で求められるチームマネジメント
第3回	介護実践におけるチームマネジメントへの取り組み
第4回	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み
第5回	チームでケアを展開するためのマネジメント
第6回	チームの力を最大化するためのマネジメント①
第7回	チームの力を最大化するためのマネジメント②
第8回	介護福祉職のキャリアと求められる実践力
第9回	介護福祉職としてのキャリアデザイン
第10回	介護福祉職のキャリア支援・開発
第11回	自己研鑽に必要な姿勢
第12回	介護サービスを支える組織の構造
第13回	介護サービスを支える組織の機能と役割
第14回	介護サービスを支える組織の管理
第15回	期末試験
	※学生の理解度状況により、講義内容を多少変更することがある。その際は、学生に事前に告知する。

授業時間外の学習

事前学習：テキストに目を通して頂くこと（該当ページ等は授業内にて指示）

事後学習：授業の理解度を高めるため、必要に応じて確認テストを実施（実施について事前に授業内にて指示）

成績評価

期末試験100%で評価する。

講義のほか、学習内容を深めるために必要に応じてグループワークも行う。

積極的に授業に参加することを期待する。

使用テキスト

テキスト：最新・介護福祉士養成講座第1巻「人間の理解」 中央法規

資料：随時ワークシートを配布予定

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	社会の理解 I	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	川村 仁美	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

「社会の理解」では、個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉え、対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。また、日本の社会保障の基本的な考え方やしぐみについて理解する科目である。

「社会の理解 I」では、地域社会での生活と支援について基礎的な知識を身につける観点から、以下を目的とする。

- (1) 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。
- (2) 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。
- (3) 日本の社会保障の基本的な考え方、しぐみについて理解する学習とする。

到達目標

- ・個人・家族・地域・社会のしぐみ、地域における生活の構造について学び、生活の基本機能とライフサイクルを理解できる。
- ・生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。
- ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としぐみ、その実現のため制度・施策を理解できる。
- ・社会保障制度の基本的な考え方としぐみ、社会保障の現状と課題を理解できる。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション／社会と生活のしぐみ1（生活の基本機能）
第2回	社会と生活のしぐみ2（ライフスタイルの変化／家族の機能と役割）
第3回	社会と生活のしぐみ3（社会・組織の機能と役割／地域・地域社会／地域社会における生活支援）
第4回	地域共生社会の実現に向けた制度や施策1（地域福祉の発展）
第5回	地域共生社会の実現に向けた制度や施策2（地域共生社会／地域包括ケア）
第6回	第1回～第5回のまとめ
第7回	社会保障制度1（社会保障の基本的な考え方）
第8回	社会保障制度2（日本の社会保障制度の発達①）
第9回	社会保障制度3（日本の社会保障制度の発達②）
第10回	社会保障制度4（日本の社会保障制度のしぐみ①）
第11回	社会保障制度5（日本の社会保障制度のしぐみ②）
第12回	社会保障制度6（日本の社会保障制度のしぐみ③）
第13回	社会保障制度7（現代社会と社会保障制度）
第14回	第7回～第13回のまとめ
第15回	期末試験および解説

授業時間外の学習

- 【講義前】1.0時間
- ・講義ごとにテキストの該当ページを一読してくること
- 【講義後】1.5時間
- ・講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、UMUによる確認テストを繰り返し復習すること
 - ・介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること

成績評価

定期試験の得点により評価する。

定期試験 100%

使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座2
 社会の理解【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集
 中央法規出版株式会社/発行

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	社会の理解Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	川村 仁美	配当年次	1	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

介護福祉士養成カリキュラムにおいて「社会の理解」では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ科目である。

「社会の理解Ⅱ」では、介護を必要とする方に対する法制度の基礎的な知識を身につける観点から、以下をねらいとする。

- (1) 障害者福祉の制度・施策について、基本的な考え方しくみ、障害者福祉の現状と課題等を理解する学習とする。
- (2) 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護等、介護実践に関連する制度・施策について、基礎的な知識を習得する。

到達目標

- ・日本における障害者福祉制度の現状と課題を理解し、障害者福祉制度の展望を考えることができる。
- ・障害者福祉制度の基本的な考え方としきみ、「障害者総合支援法」の内容を理解することができる。
- ・介護領域に隣接する保健医療の各制度・施策について理解できる。
- ・権利擁護や個人情報保護など、人間の尊厳と自立に関わる介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としきみを理解することができる。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション／障害者保健福祉の動向、障害者福祉の現状
第2回	障害者保健福祉に関する制度1（障害者福祉の歴史）
第3回	障害者保健福祉に関する制度2（障害者保健福祉の法律、障害児に対する支援）
第4回	障害者総合支援制度1
第5回	障害者総合支援制度2
第6回	障害者総合支援制度3
第7回	第2回～第6回のまとめ
第8回	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策（生活保護法・生活困窮者自立支援法）
第9回	個人の権利を守る制度・施策1（虐待防止に関する制度・施策）
第10回	個人の権利を守る制度・施策2（成年後見制度・日常生活自立支援事業）
第11回	個人の権利を守る制度・施策3（保健医療に関する制度・施策1）
第12回	保健医療に関する制度・施策2
第13回	地域生活を支援する制度・施策
第14回	第1回～第13回のまとめ
第15回	学期末試験および解説

授業時間外の学習

【講義前】1.0時間

- ・講義ごとにテキストの該当ページを一読してくること

【講義後】1.5時間

- ・講義で学習した範囲に出てきた新しい専門用語について復習すること
- ・介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること

成績評価

期末試験	70%
平常点（出席率）	15%
確認テスト	15%

使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座2
 社会の理解【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集
 中央法規出版株式会社/発行

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	生活文化Ⅰ（キャリアデザイン）	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	キャリア支援課 川端 由美子	配当年次	1	開講時期	通年
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

この授業は、皆さん一人ひとりが介護福祉士としてどのようなキャリア（職業人生）を歩みたいのか、卒業後の進路を共に考えるものです。具体的には、自分自身のことをよく知るための「自己理解」に焦点を当て、個人ワークを中心に進めます。また、「職業理解」を図るために、社会福祉施設で働く現場の方による講話をオムニバス形式で実施します。（なお、ゲストスピーカーの都合により講義回が前後することがあります）

到達目標

- ・自身の興味・能力・価値観を認識し、これまでの経験を振り返ることで、「自己理解」を深める。
- ・自身のことを他者に伝えることができる（自己PRができる）。
- ・介護福祉士として活躍できる場を知り、自分なりの介護観を考える。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	04/17（月）1限 授業ガイダンス
第2回	05/15（月）1限 キャリアとは、キャリア形成の考え方
第3回	06/05（月）1限 自己理解：キャリアを考える3つの視点
第4回	06/26（月）1限 自己理解：強みを考える
第5回	07/03（月）1限 職業理解：特別養護老人ホーム編
第6回	07/18（火）1限 自己理解：自己PRの作成
第7回	08/28（月）1限 職業理解：介護老人保健施設編
第8回	09/11（月）1限 職業理解：有料老人ホーム編
第9回	10/16（月）1限 職業理解：オンライン見学
第10回	10/30（月）1限 自己理解：自己PR発表
第11回	12/04（月）1限 自己理解：実習の振り返り
第12回	12/18（月）1限 職業理解：障がい者施設編
第13回	01/15（月）1限 職業理解：卒業生編
第14回	02/19（月）1限 進路決定プロセス、2年次の行動計画作成
第15回	02/26（月）1限 科目のまとめ

授業時間外の学習

毎回の授業の振り返りを行い、「自己理解」「職業理解」を深める。
 ゲストスピーカーによる講話前にはその法人について下調べをする。
 2号館3階の就職コーナーや求人検索システム「ASK ME!」を利用し、進路に関する情報収集をする。

成績評価

科目試験（筆記試験・持ち込み不可）：60％
 自己PR発表、毎回講義後の振り返りコメントの提出および内容、宿題：40％

使用テキスト

適時、資料配付。

担当教員の実務経験

アルファ医療福祉専門学校 キャリア支援課 課長 川端由美子
 大学卒業後、企業にて採用教育業務に従事。2004年よりキャリアコンサルタント業。前職は国立大学の教員としてキャリア教員を担当。2019年3月より現職。経済学修士、教育学博士。専門はキャリア形成、人的資源管理、女性労働。保有資格は1級キャリアコンサルティング技能士（国家資格）、産業カウンセラー。

現代の社会活動ではコンピュータの活用は不可欠であることを踏まえ、その基本的な操作を習得する。
本講義では、文書作成では広く普及しているMicrosoft Wordを使ったレポートおよびビジネス書類の作成を学ぶ。

パソコンを用いてMicrosoft Wordの基本操作を身につけるとともに、いくつかのアプリケーションを統合して活用できるようになることを目標とする。具体的には、次の項目に到達できるようにする。

- ①簡単なプロフィールカードの作成
- ②フォーマットを利用したレポートの作成
- ③複数のアプリケーションを統合したMicrosoft Wordの活用
- ④実習レポートをPC入力できる能力を身につける

[illegible]

授業内容に関する課題を毎回与えます。課題を通して知識の定着のために必ず復習してください。

課題提出物(80%)、授業態度(20%)

プリントを用意します。

学校法人西田学園 アルファ医療福祉専門学校

科 目 名	生活文化(レクリエーション)	対 象 学 科	介護福祉学科		
担 当 教 員	渡辺 潤一	配 当 年 次	1	開 講 時 期	前期
		授 業 形 態	演習	単 位	1

授業概要

- ・レクリエーション活動援助の意義を理解し、介護福祉士として必要なレクリエーションの専門知識と技術を習得する。
- ・レクリエーション活動援助の実際を実技を通して学ぶ。
- ・レクリエーション活動援助にどのような価値があり、どのような効果が期待できるのかを体験等を通して学ぶ。
- ・この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。

到達目標

- ・実習等での現場で参加者の方々に対してレクリエーションプログラムの立案・実施ができるようになること。
- ・将来、職場等においてレクリエーションに関する研修会や行事等でリーダー的存在になれることを目指す。
- ・授業での学びを生かし、日頃の学校生活等を充実したものにする。

授業計画

[illegible]

授業時間外の学習

事前学習：レクリエーション財を自主的に学習し実践する。
事後学習：授業で行った練習問題や実技を復習する。

成績評価

定期試験の得点により評価する。
定期試験 100%

使用テキスト

必要に応じて資料等を配布する

担当教員の実務経験

介護福祉施設等において介護福祉士としての経験を有する

科目名	介護の基本Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	2	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

介護福祉を取り巻く状況の理解と、福祉・介護の専門職としての能力と態度を養うことの意味を、理論と実践の両面から学ぶ。介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、フォーマル及びインフォーマルな支援、地域を基盤とした生活の継続性を支える地域連携の仕組みを講義・演習を通して理解する。

- (内容) 1. 介護を必要とする人を中心とするさまざまな介護サービスの特性について講義や演習で理解を深める。
2. 高齢者や障害を持つ人の生活全般を理解し、自立・社会参加・地域活動について講義や演習で理解を深める。
3. 介護サービスとその提供の場の特徴を知り、介護福祉士の役割を理解する。
4. 授業理解度の確認のための小テストや練習問題を実施する。これらのテストは定期試験や国家試験の対策となる。

到達目標

介護福祉の基本理念を踏まえ、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解していく。介護の基本Ⅱ（2年次）前期では以下の項目を授業目標とする

1. その人らしい生活を支援する専門職としての基本となる考え方や姿勢を学ぶことで、介護の専門職としての基本的な視点や介護サービスの在り方、役割を理解することができる。
2. 介護の意義、生活支援の基本的視点、介護サービスの特性について理解を深め、利用者の立場になれる専門職としての姿勢を身に付ける。
3. 利用者を取り巻く社会環境を知り、生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。

授業計画

回数	授業計画・内容	
第1回	介護福祉を必要とする人の理解1：私たちの生活の理解 オリエンテーション	講義・演習
第2回	介護福祉を必要とする人の理解2：生活にとっての必要な要素とその特性とは	講義・演習
第3回	介護福祉を必要とする人の理解3：事例から考える高齢者の暮らし	講義・演習・小テスト
第4回	介護福祉を必要とする人の理解4：事例から考える障害者の暮らし	講義・演習
第5回	介護福祉を必要とする人の理解5：その人らしさと生活ニーズ	講義・演習・小テスト
第6回	介護福祉を必要とする人の理解6：生活のしづらさを解消する視点とは	講義・演習
第7回	介護福祉を必要とする人の理解7：【フィールドワークで知るチームケアの視点】	講義・グループワーク
第8回	介護福祉を必要とする人の理解8：【フィールドワークで知るチームケアの視点】	講義・グループワーク
第9回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ1：高齢者のフォーマルサービス	講義・演習
第10回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ2：障害者のフォーマルサービス	講義・演習
第11回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ3：インフォーマルサービスとは	講義・演習・小テスト
第12回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ4：地域連携（1）	講義・演習
第13回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ5：地域連携（2）	講義・演習
第14回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ6：地域連携（3）全体のまとめ	講義・まとめ・小テスト
第15回	期末試験・解答解説	試験・解説
	備考：講義の進捗状況と確認テストの結果、提出物などから学生の理解度を判断し、講義内容を多少変更することがある。その際は、事前に告知又は掲示をおこなう。	

授業時間外の学習

事前学習：次回の授業範囲の教科書のページを読み、内容の把握をしておく。
小テストは授業の理解度のためにおこなう。出題内容の事前解説をおこなった上で当該授業の最後に実施となる。
事後学習：講義内容を振り返り、自習・復習をおこなう。また、当該授業で実施した小テストは事後学習に活用すること。
その他：授業内で不定期に実施する練習問題は、介護福祉士国家試験対策となる。積極的に取り組むこと。
小テストの振り返りは、期末試験の予習・学習にもつながる。

成績評価

学期末におこなわれる定期試験の結果をもって評価する。
定期試験（期末試験）・・・100%

※ただし本科目は1年次の「介護の基本Ⅱ」との総合評価のため、1年次の評価方法との合算（1年次50%＋2年次50%）となる。1年次の成績評価についてはシラバスを参照すること

使用テキスト

最新 第2版 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版
授業項目に合わせレジュメ・資料を配布し使用する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	介護の基本Ⅲ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	2	開講時期	通年
		授業形態	講義	単位	2

授業概要

前期：介護におけるリスクマネジメントの必要性や、安全の確保のための基礎的な知識や事故発生時の対応を理解し、介護職員間や他職種との連携が求められる介護福祉士の役割について、講義や演習を通して学びを深める。

- （内容） 1. 利用者の尊厳ある暮らしを支えるために不可欠な安全対策・リスクマネジメント・事故防止について学ぶ。
 2. 身体拘束・高齢者虐待の現実や権利擁護の法律について、学習や演習を通して習熟し理解する。
 3. 介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識を身に付け、訓練としての演習を通して感染症対策を学ぶ。

後期：介護現場において、多職種との連携が求められる介護福祉士の役割について、講義や演習で理解を深める。また、対人援助サービスにおけるチームアプローチの基本や、同職種・他職種との連携の必要性を学習する。

- （内容） 1. 利用者を取り巻くさまざまな形の連携を理解し、地域連携の必要性やチームアプローチの心構えを養う。
 2. 多職種協働のための、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割を理解する。
 3. 介護に関わる職種としての自身の健康管理や労働環境について、講義や演習などで理解を深める。

到達目標

介護福祉士としての職務責任の基本を学び、多職種や地域との連携に対する職場での実践的な対応や、行動様式を身につける。介護の基本Ⅲ（通年）においては以下の項目を授業目標とする。

- ①介護サービスの提供の場における安全の確保やリスクマネジメントについて体系的に学び理解できる。
- ②利用者を取り巻く安全な生活環境、感染管理のための方策について理解し、正しい知識を習得できる。
- ③介護福祉士を目指す立場として職業観・労働観を養い、社会貢献や自らの自己実現を意識することができる。
- ④介護福祉士に必要な倫理や専門性を理解し、本単科や他の学習を通して総合的に考える力を持つことができる。
- ⑤チームアプローチの基本を学び、各職種の役割や連携の在り方を理解することができる。
- ⑥地域の中の生活者である利用者の支援について考え、実践できる介護福祉士の姿勢について総合的に習得する。
- ⑦専門職としての介護福祉士の役割をより深く理解し、働くうえでの健康管理の必要性を学ぶことができる。
- ⑧介護従事者が心身ともに健康に介護を実践するための、健康管理や労働環境について理解する。

授業計画

回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第1回	オリエンテーション：授業の全体像	講義・演習	第16回	多職種連携・協働の必要性 1	講義・演習
第2回	介護における安全の確保	講義・演習	第17回	多職種連携・協働の必要性 2	講義・演習
第3回	リスクマネジメントとは何か 1	講義・演習	第18回	多職種連携・協働に求められる能力 1	講義・演習
第4回	リスクマネジメントとは何か 2	講義・演習	第19回	多職種連携・協働に求められる能力 2	講義・演習
第5回	リスクマネジメントとは何か 3	講義・演習	第20回	保健・医療・福祉職の役割と機能 1	講義・演習
第6回	リスクマネジメントとは何か 4	講義・演習	第21回	保健・医療・福祉職の役割と機能 2	講義・演習
第7回	リスクマネジメントとは何か 5	講義・演習	第22回	多職種連携・協働の実践 1	講義・演習
第8回	リスクマネジメントとは何か 6	講義・小テスト	第23回	多職種連携・協働の実践 2	講義・小テスト
第9回	感染症対策 1	講義・演習	第24回	健康管理の意義と目的 1	講義・演習
第10回	感染症対策 2	講義・演習	第25回	健康管理の意義と目的 2	講義・演習
第11回	感染症対策 3	講義・演習	第26回	こころの健康管理 1	講義・演習
第12回	感染症対策 4	講義・演習	第27回	こころの健康管理 2	講義・演習
第13回	感染症対策 5	講義・演習	第28回	身体の健康管理	講義・演習
第14回	感染症対策 6 試験対策・まとめ	講義・演習	第29回	労働環境の整備 試験対策・まとめ	講義・演習
第15回	前期末試験・解説	試験・解説	第30回	後期末試験・解説	試験・解説
	備考：講義の進捗状況などが学生の理解度に合わせて、講義内容を変更することがある。その場合は事前に告知又は掲示をおこなう（通年）			備考：後期授業においては各回に国家試験対策のための「国家試験クイック講座」も組み込まれる。	

授業時間外の学習

事前学習：次回の授業範囲の教科書のページを読み、内容の把握をしておく。

授業の最後に練習問題（国家試験過去問）が実施されることもある。また、該当回に小テストを実施する。小テストは事前に内容が告知され、学習の理解度や実力を確認するために実施される。

事後学習：講義内容を振り返り、自習・復習する。練習問題や小テストの振り返りは、期末試験の予習・学習にもつながる。

成績評価

前期・後期におこなわれる定期試験の結果をもって評価する（前期・後期の試験結果を合算し2で割った点数が基準となる）
 定期試験（期末試験）・・・100%

使用テキスト

最新 第2版 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版株式会社
 授業項目に合わせレジュメ・資料を配布し使用する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

令和5年度

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	佐藤 真基子	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1

授 業 概 要	
「コミュニケーション技術」は、利用者やその家族と支援関係の構築や、チームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う科目です。 第1章、第2章では、コミュニケーションの意義や援助関係の構築、傾聴、受容、言語的・非言語的コミュニケーションなど、介護を実践する際の基本となるコミュニケーションの考え方や技術を学びます。	
到達 目 標	
①コミュニケーション態度に関する基本技術が理解できる ②言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本が理解できる ③目的別のコミュニケーション技術が理解できる ④集団におけるコミュニケーション技術が理解できる	
授 業 計 画	
回数	授業計画・内容
第1回	授業概要の説明/介護におけるコミュニケーションとは
第2回	介護におけるコミュニケーションの対象
第3回	援助関係とコミュニケーション① 援助関係の特徴
第4回	援助関係とコミュニケーション② 援助関係を構築するための原則
第5回	コミュニケーション態度に関する基本技術① 傾聴
第6回	コミュニケーション態度に関する基本技術② 受容と共感
第7回	コミュニケーション態度に関する基本技術③ コミュニケーションにおける距離
第8回	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
第9回	目的別のコミュニケーション技術① 動機づけ
第10回	目的別のコミュニケーション技術② ものの見方に変化を生み出す技術
第11回	目的別のコミュニケーション技術③ 意思決定を支援するためのコミュニケーション
第12回	集団におけるコミュニケーション技術
第13回	様々な場面でのコミュニケーション技術①
第14回	様々な場面でのコミュニケーション技術②
第15回	筆記試験
授 業 時 間 外 の 学 習	
事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。 事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。	
成績評価	
定期試験の得点により評価する。 定期試験 100％	
使用テキスト	
・コミュニケーション技術（中央法規） ・配布資料	
担当教員の実務経験	
介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。	

科目名	生活支援技術Ⅰ（栄養・調理）	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	荻原 京子	配当年次	2	開講時期	前期
		授業形態	実習・講義	単位	1

授業概要

実習では調理の基本を身につけると共に、個々の状態を理解した上で支援が出来るよう食べる人に合わせた献立と調理法を理解する。又、食事、病態に合わせた献立を食品衛生に注意を払いながら調理・実習する。
講義では栄養の基礎、疾病と食事の関係を学び、実習で学習した主旨の確認をし定着出来るよう進める。

到達目標

食べる人に合わせた食事を学ぶことを通して、生活の質の向上を図る支援が出来る様に必要な知識を習得する。又、栄養知識の基礎を学習し、国家試験に対応出来るようにする。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	実習 調理室の使い方 調理の基本
第2回	講義 栄養学の基本知識
第3回	調理実習 栄養価の高い食事の調理（親子丼 すまし汁 他）
第4回	調理実習 栄養価の高い食事の調理（親子丼 すまし汁 他）
第5回	調理実習 腎臓病食の調理（そうめん 豚肉の冷しゃぶ 他）
第6回	調理実習 腎臓病食の調理（そうめん 豚肉の冷しゃぶ 他）
第7回	調理実習 嚥下しやすい食事の調理（中華粥 水餃子 他）
第8回	調理実習 嚥下しやすい食事の調理（中華粥 水餃子 他）
第9回	講義 栄養学の基本知識の重要ポイントの確認・復習
第10回	講義 栄養学の基本知識の重要ポイントの確認・復習
第11回	講義 病態別食事重要ポイントの確認・復習・演習
第12回	講義 病態別食事重要ポイントの確認・復習・演習
第13回	講義 高齢者・病態別の食事・献立作成の演習・発表
第14回	講義 高齢者・病態別の食事・献立作成の演習・発表
第15回	期末試験

授業時間外の学習

なし

成績評価

実技「調理実習報告書」「講義報告書」の内容と提出 30%
筆記試験 70%

使用テキスト

実習時には毎回レシピ・資料を配付する。講義時には生活支援技術Ⅰのテキストを基にした、参考資料を配付する。

担当教員の実務経験

管理栄養士としての実務経験を有する。

令和5年度

科目名	生活支援技術Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	半田 仁	配当年次	2	開講時期	通年
		授業形態	講義	単位	4

授業概要

- 1、「生活支援技術」は、尊厳の保持・自立支援・生活の豊かさの観点から、以下の学習とする。
 - ①本人主体の生活を「している活動」ととらえる。
 - ②福祉用具を含めた環境の工夫から「できる活動」をふやす。
 - ③できないところの援助を考える。
 生活支援技術Ⅱでは、以下のねらいとする。
- 2、エンパワメントを引き出し、本人主体の生活を地域で継続するためにICFの視点に基づいた介護過程の展開実践方法を理解する。

到達目標

- ・障害や疾病がある人について、医学的・心理的側面から理解するとともに介護福祉士が行う生活支援の意義を考えることができる。
- ・ICFの視点を生活支援に活かすことの意味を理解し、根拠に基づいた適切な技術を理解する。
- ・対象となる本人の状態・状況に応じた生活支援技術の知識・技術を学び、自立に向けた生活支援を考えることができる。
- ・生活支援技術Ⅱで習得した学びを活かし、福祉用具・環境についての知識・技術を理解する。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション、生活支援技術とリハビリ介護
第2回	食事のメカニズム
第3回	食事のリハビリ介護と福祉用具
第4回	排泄のリハビリ介護と福祉用具
第5回	入浴のリハビリ介護と福祉用具
第6回	更衣のリハビリ介護と福祉用具
第7回	整容のリハビリ介護と福祉用具
第8回	移動のリハビリ介護と福祉用具
第9回	移乗のリハビリ介護と福祉用具
第10回	レクリエーションの視点を含めたリハビリ介護と福祉用具
第11回	人の姿勢・動きのメカニズム 第1回～第9回のまとめ
第12回	中間試験（筆記試験）（60分試験 30分解説） 前期
第13回	卒業実技試験事例説明 後期
第14回	卒業実技試験事例説明
第15回	卒業実技試験事例説明
第16回	演習
第17回	演習
第18回	演習
第19回	期末試験（卒業実技試験）
第20回	期末試験（卒業実技試験）

授業時間外の学習

- 【講義後】
- ・講義で学習した範囲に出てきた新しい専門用語について復習すること
 - ・介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること

成績評価

筆記試験及び実技試験 100%

使用テキスト

生活支援技術Ⅱ・1 介護福祉士養成講座編集委員会/編集
中央法規出版株式会社/発行

担当教員の実務経験

介護福祉施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	介護過程Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

介護福祉士の中核である「介護過程」の実践的展開に関する基本的なスキルを身につける。
 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析をおこない、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を養う。
 (内容) 1. 介護過程とは何か、なぜ介護過程を適切に展開する能力が求められているのかを理解する。
 2. 専門知識・技術を根拠とした、科学的な思考過程が必要であることを理解する。
 3. アセスメント・計画の立案・実施・評価のプロセスについて基本的な知識を体系的に理解する。
 4. 尊厳や自立支援について考える力を身に付け、利用者への適切な支援の必要性を講義や事例を通して理解する。
 5. 介護の実践的展開について、他の領域で学んだ専門的な知識と技術を統合し理解を深める。

到達目標

介護福祉士を目指す学生として、アセスメント・計画の立案・実施・評価等をおこなうプロセスを理解する。介護過程Ⅰにおいて、以下の項目を具体的な授業目標とする。
 ①介護過程の意義や方法、構成要素、目的を理解できる。
 ②介護過程を展開するうえで、チームアプローチの必要性やチームにおける介護福祉士の役割を理解できる。
 ③アセスメントを学習する中で、ICFシートの活用方法を理解し記述していくことができる。
 ④事例を通して、必要な情報や生活上の課題を見つけ出し記述することができる。

授業計画

回数	授業計画・内容	
第1回	オリエンテーション 介護過程とは 意義・目的・全体像	講義・演習
第2回	介護過程の展開の基本的視点1 介護過程とICF（国際機能生活分類）	講義・演習・小テスト
第3回	介護過程の展開の基本的視点2 介護過程の全体像 事例検討・研究の必要性	講義・演習・小テスト
第4回	介護過程の理解1 介護過程の展開 目的・方法・視点・求められる思考の方法とは	講義・演習・小テスト
第5回	介護過程の理解2 アセスメントの意義・方法 情報収集とは	講義・演習・小テスト
第6回	介護過程の理解3 情報の解釈・関連づけ・統合化	講義・演習・小テスト
第7回	介護過程の理解4 課題の明確化 アセスメントの視点・実際	講義・演習・小テスト
第8回	介護過程の理解5 計画の立案 介護計画とは 目標の設定・優先順位	講義・演習・小テスト
第9回	介護過程の理解6 計画の立案 支援内容・支援方法の決定 介護計画立案	講義・演習・小テスト
第10回	介護過程の理解7 実施について 留意点 記録の種類と必要性	講義・演習・小テスト
第11回	介護過程の理解8 評価について 意義と目的 方法 留意点	講義・演習・小テスト
第12回	介護過程とチームアプローチ1 介護過程とケアマネジメントの関係性	講義・演習
第13回	介護過程とチームアプローチ2 チームアプローチにおける介護福祉士の役割	講義・演習・小テスト
第14回	介護過程Ⅰの総合まとめ 展開の意義や考え方・方法について 試験対策	講義・演習
第15回	期末試験・解説	試験・解説
	備考：講義の進捗状況と課題達成度、提出物などから学生の理解度を判断し、講義内容を多少変更することがある。その際は事前に告知又は掲示をおこなう。	

授業時間外の学習

事前学習：次の授業範囲の教科書を読み、内容の把握をしておく。
 小テストは授業の理解度の確認のためにUMUを用いて実施する。第2回から第13回まで授業毎におこなわれる。
 小テストの結果やその理解度、リアクションペーパーに合わせ、解説や補足をおこなう。
 事後学習：講義内容を振り返り、自習・復習をおこなう。当該授業で実施した小テストは事後学習に活用すること。
 小テストの振り返りは、学期末試験の予習にもつながるため積極的に取り組むこと。
 なお、UMUでおこなわれる小テストは授業内もしくは自宅学習になる場合もある。

成績評価

学期末におこなわれる定期試験の結果をもって評価する。
 定期試験（期末試験）・・・100%

使用テキスト

- ①最新 第2版 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版株式会社
- ②授業項目に合わせ、解説プリントや資料をデータ配布する。
- ③演習・グループワーク等で使用する資料は、プリントを配布する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

令和5年度

科 目 名	介護過程Ⅲ	対 象 学 科	介護福祉学科		
担 当 教 員	谷内 美和子	配 当 年 次	2	開 講 時 期	前期
		授 業 形 態	講義/演習	単 位	1

授 業 概 要

- 1、アセスメントから評価まで一連の介護過程における思考過程の演習を繰り返す。
- 2、2段階実習での介護過程の取り組みを踏まえ、事例から自分たちの考えをまとめる。
- 3、事例を一つ一つ丁寧に様々な角度から分析し、利用者の望む生活の実現に向けてあらゆる可能性を追求する姿勢を確認する。
- 4、毎回事例検討記録を提出し教員が確認評価することにより、不足部分の確認をする。
- 5、ケアマネジメントと介護過程の関連性を講義から振り返る。

到 達 目 標

- 1、目の前の利用者に適切な支援を提供できる力を養う。
- 2、ICFの考え方を理解し、介護過程の実践に活かす事が出来る。
- 3、様々な事例から個別援助のあり方を考える。
- 4、2段階実習で情報収集、アセスメント、計画立案までが実践できる。

授 業 計 画

回数	授業計画・内容
第1回	介護過程の実践的展開 介護過程の展開 オリエンテーション 実習との関連性について
第2回	アセスメントの実際 情報の関連性 情報収集シートについて (観察のポイント)
第3回	アセスメントの実際 情報の整理 ICFシートの確認
第4回	演習 ICFシート記載→提出
第5回	アセスメントの実際 情報の整理 事例1 自宅で夫との生活を継続しているAさん
第6回	演習 ICF課題・分析シート→提出
第7回	アセスメントの実際 情報の分析 事例2 夫との在宅生活を望むJさんの生活支援 ICF課題・分析シート・
第8回	演習 ICF課題・分析シート→提出
第9回	アセスメントの実際 情報の優先順位 事例3 役割をもって家族と生活するIさん
第10回	演習 ICF課題・分析・個別援助計画書(目標・根拠まで)
第11回	事例3 演習 個別援助計画立案
第12回	アセスメント・計画立案 事例4 介護老人福祉施設で生活するLさん
第13回	演習 ICF課題・分析・個別援助計画書
第14回	演習 ICF課題・分析・個別援助計画書→提出
第15回	発表：個別援助計画表(目標・根拠・立案
第16回	実施・評価について 実習に向けての記録について
第17回	介護過程とケアマネジメント
第18回	介護過程とチームアプローチ
第19回	チームアプローチにおける介護福祉士の役割 試験対策
第20回	学期末試験60分 解答解説30分

授 業 時 間 外 の 学 習

事後学習：授業内容の復習。理解度確認のためUMUに問題を上げますので実施してください。

成 績 評 価

期末試験100%

使 用 テ キ ス ト

中央法規出版 「介護過程」実習記録 事例プリント 介護過程ハンドブック「小菅先生作成」

担 当 教 員 の 実 務 経 験

医療施設等において看護師としての実務経験を有する。

科目名	介護総合演習Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

養成校における施設実習の準備でもある当科目においては、各領域で学ぶ介護実践につなげていく力を養う。また、要介護者である個々の利用者について理解を深めることができる講義や演習などを展開する。学校で学んだことを実習先で実践でき、それぞれの力を発揮できる学習や演習をおこなっていく。

- (内容) 1. 実習施設の概要について理解する。さまざまな施設・事業所の概要を学び、その種類・特徴・業務・連携を講義や演習を通して学習する。
 2. 利用者の生活像や介護職の役割を学ぶことで実習へのイメージづくりができ、自身の目標や課題が明確にできる。
 3. 実習先で必要なコミュニケーション技術やマナー、根拠を踏まえた実習記録の記述力を身に付ける。
 4. 事例演習やグループワークを通して自分自身と他者との関わりを振り返り、利用者への理解にもつなげる。

到達目標

介護福祉士を目指す学生として、介護実習の意義や必要性を学び、利用者を支援するうえで必要な知識・技術・情意を深めていく。実習前学習となる介護総合演習Ⅰにおいては、以下の項目を授業目標とする。

- ①多種多様なサービスが提供されている実習施設の概要と、そこで生活する利用者像について理解できる。
- ②介護福祉士としての基本的なコミュニケーション技法、観察技法、記録の記述ができる。
- ③介護福祉士として、他者理解に必要な態度を身に付けることができる。
- ④学習における関心や疑問を認識するとともに実習のねらいや内容を理解し自己目標や学習課題を明確にすることができる。

授業計画

回数	授業計画・内容	
第1回	オリエンテーション 介護総合演習とは何か 学びの内容と位置づけ	講義・演習
第2回	介護実習の理解1 介護総合演習の意義と目的 目標を持つことの大切さ	講義・演習
第3回	介護実習の理解2 介護実習の種類 実習内容の理解と視点	講義・演習・課題レポート
第4回	実習施設の理解1 実習先の特徴、実習先での学び 実習施設の全体像	講義・演習
第5回	実習施設の理解2 訪問・通所・通所リハ・特養・老健について	講義・演習
第6回	実習施設の理解3 養護老人ホーム・グループホーム・小規模多機能施設 他	講義・演習・課題レポート
第7回	介護実習準備について1 実習前の準備、実習目標の立て方 必要な記録類	講義・演習
第8回	介護実習準備について2 実習中の学び 態度・行動目標・観察と考察 その他	講義・演習
第9回	介護実習準備について3 実習後の学び 実習体験の総まとめ 記録類の整理	講義・演習・課題レポート
第10回	実習記録について1 根拠を踏まえた実習記録書の記入方法1	講義・演習
第11回	実習記録について2 根拠を踏まえた実習記録書の記入方法2	講義・演習
第12回	実習記録について3 根拠を踏まえた実習記録書の記入方法3	講義・事例演習・グループ演習
第13回	実習記録について4 プロセスレコードの意義・基礎・作成	講義・演習・課題レポート
第14回	実習目標の理解 総まとめ 実習目標の意義と目的	講義・試験対策
第15回	期末試験・解答解説	試験・解説
	備考：講義の進捗状況と課題の達成度や提出物などから学生の理解度を判断し、講義内容を多少変更することがある。 その際は、事前に告知又は掲示をおこなう。	

授業時間外の学習

事前学習：次の授業範囲の教科書を読み、内容の把握をしておく。

課題レポートは、授業の理解度の確認や実習本番を想定した記述訓練を兼ねている。授業内もしくは自宅学習として提示される。提出内容や習熟度、リアクションペーパーに合わせ、解説や補足をおこなう。

学習の理解度の確認や、演習のディスカッションにeラーニングを活用する。

事後学習：講義内容を振り返り、自習・復習をおこなうこと。授業に合わせ提示する資料や課題を復習に活用すること。

成績評価

学期末におこなわれる定期試験の結果をもって評価する。

定期試験（期末試験）・・・100%

使用テキスト

- ①最新 第2版 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版株式会社
- ②授業項目に合わせ、解説プリントや資料をデータ配布する。
- ③演習・グループワーク等で使用する場合は、プリントを配布する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

令和5年度

科 目 名	介護総合演習Ⅲ	対 象 学 科	介護福祉学科		
担 当 教 員	谷内 美和子	配 当 年 次	2	開 講 時 期	前期
		授 業 形 態	講義	単 位	1

授 業 概 要

- (1回～7回：2段階実習前指導)
- 1、目的・目標を明確にする。
 - 2、介護過程の評価まで行うので、計画・予定をしっかりとイメージし自分の行動計画を明確にする。
 - 3、記録の書き方・まとめ方を実施できるように準備する。
 - 4、総合的に、技術面も確認できるようにする。
 - 5、チームの連携について理解する。
 - 6、3段階実習への心構えを態度、知識、技術面でも確認する。
- (8回～11回：実習中の帰校日)
- 1、実習状況の振り返りをする。6/7(⑧・⑨)・6/21(⑩・⑪)
 - 2、各担当教員からの課題取り組みの確認。
- (12回～15回：実習終了後実習の記録のまとめ・報告会での情報共有・自己の振り返り)
- 1、記録の仕上げ・点検
 - 2、実習の取り組みの評価、今後の自分の課題を明確にする。

到 達 目 標

- 1、介護過程の展開を軸とした介護実習の目的と目標を理解する。
(情報収集・アセスメント・計画立案まで実施できる)
- 2、実習Ⅱであるため、他の科目での学習を結びつけ、総合的に実習に取り組む準備をして、充実した実習にする。
- 3、自分の傾向を知り、評価する必要性を理解する。

授 業 計 画

回数	授業計画・内容
第1回	2段階実習までの準備について説明：同意書・学生カード目標の説明
第2回	書類の配布・確認 (計画予定表の説明、提出タイミングなど)
第3回	介護過程の展開を実施できる行動計画か説明していく。(実習指導者をゲストスピーカーとして招く30分)
第4回	個々の目標との照らし合わせ/毎日の記録の確認 (実習指導者をゲストスピーカーとして招く30分)
第5回	他の教科との結び付きについて場面によるシミュレーション (実習指導者をゲストスピーカーとして招く30分)
第6回	巡回時の確認事項・オリエンテーションの確認
第7回	実習に際しての最終確認を実習の手引きから行う。(時間・身だしなみ・態度・提出書類など)
第8回	帰校日 利用者の情報収集の進み方・課題抽出状況の確認
第9回	帰校日 利用者の情報収集の進み方・課題抽出状況の確認
第10回	帰校日 課題抽出状況・計画立案・実施状況の確認
第11回	帰校日 課題抽出状況・計画立案・実施状況の確認
第12回	実習記録の確認・整理
第13回	実習記録の確認・整理
第14回	実習報告会
第15回	実習報告会

授 業 時 間 外 の 学 習

- 事前学習：次の授業範囲の教科書を読み内容の把握をしておく。
- 事後学習：授業に合わせ提示する課題を期間内に担当教員に確認してもらう。なお提出物や忘れ物については評価に反映される。

成 績 評 価

1、実習評価・巡回教員評価：100%

使 用 テ キ ス ト

中央法規出版 介護総合演習
実習の手引き

担 当 教 員 の 実 務 経 験

医療施設等において看護師としての実務経験を有する。

令和5年度

科目名	発達と老化の理解 I	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	佐藤 真基子	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

「発達と老化の理解」は、人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を学習する科目です。
1章では、成長・発達の考え方、成長・発達の原則や影響する要因など基礎的な知識を学びます。2章では、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題および特徴的な疾病について学びます。3章では、老年期の特徴と発達課題について学びます。

到達目標

- ①成長・発達の考え方、成長・発達の原則や影響する要因など基礎的な知識が理解できる
- ②ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題および特徴的な疾病が理解できる
- ③老年期の特徴と発達課題が理解できる

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	授業概要の説明/成長・発達の考え方
第2回	成長・発達の原則・法則
第3回	成長・発達に影響する要因①
第4回	成長・発達に影響する要因②
第5回	発達段階と発達課題① ピアジェの認知発
第6回	発達段階と発達課題② エリクソン・ハヴィーガーストの発達段
第7回	身体的機能の成長と発達①
第8回	身体的機能の成長と発達②
第9回	社会的機能の発達①
第10回	社会的機能の発達②
第11回	老年期の定義
第12回	老化とは
第13回	老年期の発達課題①
第14回	老年期の発達課題②/老年期をめぐる今日的課題
第15回	筆記試験

授業時間外の学習

事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。
事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。

成績評価

定期試験の得点により評価する。

定期試験 100%

使用テキスト

- ・発達と老化の理解（中央法規）
- ・配布資料

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	認知症の理解 I	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	安部 記子	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

- 1.講義により認知症の歴史、医療、心理状況を座学でしっかり学ぶことで、これからの認知症ケアに興味関心を持つことができる。
- 2.「認知症の人」と特別視するのではなく、人として捉える事の重要な理解につなげる。
- また認知症の人の気持ちを知りに寄りそう事ができる体験学習となるよう当事者とのディスカッションや事例を活用したグループワークなど集団型（チーム）演習で気づきを増やす。
- 3.対人援助職として、認知症の人だけでなく他者によりそのきっかけとなる
- 4.予習と自己学習を促し、授業の理解を深める
- 5.実際に当事者の気持ちに触れ、これからの自分のケアにつなげることを目指す

到達目標

- ・これまでの「認知症の人」の生活を知ることにより、介護福祉士としてこれからの認知症ケアとしてとらえるだけでなく、私たちと同じ人としての対応やケアを考え実践する心を養うことができる。
- ・中核症状、BPSDの違いを理解したうえで、BPSDの出現が生活する中の環境にもあることを知ることができる。
- ・環境の要因はハード面だけでなく、ソフト面が大切なことを知り専門職として認知症の人の基本的なケアができる。
- ・施設や在宅に限定されない「地域ケア」が求められている事を知るきっかけとなる。
- ・パーソンセンタードケアの考え方を事例検討や演習を通し体験することができる
- ・体験学習を通し「認知症の人の関わり」「認知症の人の心情」に気づくことができる

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	P2～オリエンテーション 自己紹介 はじめに 認知症の基礎的理解 認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何
第2回	P14～脳のしくみ 認知症の人の心理
第3回	P34～認知症の症状・診断・治療・予防 中核症状の理解 生活障害の理解
第4回	P49～BPSDの理解
第5回	P64～認知症の診断と重度化 宿題P77
第6回	P78～認知症の原因疾患と症状・生活障害
第7回	P96～認知症の治療薬 認知症の予防
第8回	P110～認知症ケアの歴史と理念 認知症を取り巻く状況これまで一今一これから PP認知症ケアの歴史視聴
第9回	P121～認知症ケアの理念と視点
第10回	P135 介護理念を作ろう グループワーク 必陽物品→模造紙マジック付箋 宿題「ご本人にどんな事を聞いてみたいで
第11回	P136～認知症当事者の視点
第12回	認知症のご本人に聞く（予定をしますが中止の場合はDVDによる体験授業） 必要物品→感想文の用紙200～400字
第13回	P152 クループワーク 演習
第14回	まとめ 「私ってこんな人」自分を見つめる 自分アセスメント 用紙配布
第15回	期末テスト

授業時間外の学習

事前学習：指定教科書Pの読み込み（予習）配布資料の確認
宿題：3回予定（内容評価）

成績評価

定期試験の得点により評価する
期末試験 100%

使用テキスト

認知症の理解テキスト 資料配布 その他必要資料は提示

担当教員の実務経験

介護福祉施設等において介護福祉士としての実務経験を有する

科目名	障害の理解Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	川村 仁美	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

- 「障害の理解Ⅰ」では、障害がある人の生活を支えるという観点から以下を学習の目的とする。
- (1) 心身の構造や機能及び課題について理解し、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。
 - (2) 医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。
 - (3) 本人と家族が地域で自立生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習をねらいとする。

到達目標

- ・障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できるようにする。
- ・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できるようにする。
- ・ライフステージや障害特性を踏まえ、QOLを高める支援につなぐことができるようにする。
- ・障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できるようにする。
- ・障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようにする。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション／障害の概念（障害のとらえ方、障害者の定義）
第2回	障害の概念（ICIDH、ICF）／障害のある人の心理
第3回	障害者福祉の基本理念
第4回	障害者福祉に関連する制度／障害者福祉制度と介護保険制度
第5回	肢体不自由（運動機能障害）
第6回	視覚障害および聴覚・言語障害
第7回	重複障害および重症心身障害
第8回	知的障害
第9回	精神障害
第10回	高次脳機能障害
第11回	発達障害
第12回	難病
第13回	地域のサポート体制／チームアプローチ
第14回	家族への支援（家族への支援、家族介護力の評価・介護負担の軽減）
第15回	期末試験および解説

授業時間外の学習

- 【講義前】1.0時間
- ・講義ごとにテキストの該当ページを一読してくること
- 【講義後】1.5時間
- ・講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、UMUによる確認テストを繰り返し復習すること
 - ・介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること

成績評価

定期試験の得点により評価する。

定期試験 100%

使用テキスト
最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集 中央法規出版株式会社/発行
担当教員の実務経験
介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。